

# 印旛沼周辺の終末期古墳

永 沼 律 朗

---

はじめに

1. 印旛沼周辺の終末期古墳

2. 方墳と古代寺院

結 語

---

## 論文要旨

本稿の目的は、成東町駄ノ塚古墳に関連して、印旛沼周辺の終末期古墳の様相を明らかにすることにある。そのため、基本的に印旛沼周辺の終末期古墳の紹介に主眼を置いた。

結論としては、この地域の終末期古墳は方墳が多いこと。埋葬施設の石材に、貝化石を含む砂岩が使用されている古墳があることを指摘した。方墳の中でこの種の石材を使用している横穴式石室は、石材を横置きに使用し側壁を持ち送りで構築する点や床に間仕切りを有するといった点にも共通点があり、一つのグループとしてとらえることができると言える。その地域は広く見れば利根川流域から手賀沼・印旛沼周辺、狭く見れば印旛沼周辺の一部と推測する。

房総半島全体をみても終末期の方墳は多い。方墳は石室の特徴から印旛沼周辺のグループを含め二つのグループと一つの特殊な地域に分けることが可能であり、その中の大型方墳が盟主墳的な存在であろうと考える。また、それらの古墳被葬者の系譜下で、房総半島では初めて古代寺院の建立が行なわれたであろうとも推測した。

---